

# 一 般 質 問

Q 小平・大椋間降雨災害時の通行止め対策は

村 井 フミ子

一、国道232号線の小平・大椋間は、一定の降雨量を超えると通行止めになることがしばしばある。

この通行止めで、近くに迂回路を持たない鬼鹿地区の住民は、日頃の生活圏・留萌市への道が閉ざされている。

そこで、これらに対応する方策、迂回路整備やその時期など、また、新年度配布予定という防災マップへの対応について町長の考えを伺う。

A 法面崩壊の危険性が回避され、来春にも規制解除

町 長 関 次 雄

一、小平・大椋間は、法面整備が終了してから相当の期間が経過しており、9月の通行止め時には連続雨量110ミリ（規制雨量）を超える降雨でも災害の事象がないとの判断から、留萌開発建設部では来春にも規制解除の方向で準備が進められている。また、迂回路については、道道小平苦前線の寧楽以北のルートを確認していたとき、留萌北部から国道と平行した内陸道路の整備が進められると、そこに道道田代港町線を接続することが可能となり、安心した生活環境を提供できることから、国・道に對し要望している。

防災マップについては、道のシュミレーションデータをもとに作成し配布する予定であったが、日本海沿岸の津波堆積物調査がまだ不十分との検討結果からデータの提供が見送られた。このため、町としては既存の津波浸水予測データをベースに土砂災害・洪水危険区域を凶化し、災害別に避難場所を掲載したマップを新年度に全戸配布する。その後、北海道から新たなデータが提供された段階で修正し、全戸配布を行う。

Q 町長就任1年の取り組みと今後は

山 内 裕

一、町長就任より1年が過ぎたが、町長が示した所信7項目について、その取り組みと効果を伺う。また、今後思考するまちづくりの将来展望を伺う。

二、少子化問題は就業機会の創設・定住対策などにより、若年既婚者層の増加、そして子育て支援の充実が必要であると考えますが、具体的にどのような取り組みを考えているか。

三、産業振興は長年様々な政策を行っており、特に新規農業・漁業、また起業に対する支援を実施しているが、その後のアフターケアがなく、効果が発揮されていないと感じている。アフターに対する取り組みをどのように考えているか。

A スタンスを変えることなく柔軟に対応していく

町 長 関 次 雄

一、この1年を振り返り、町民と同じ目線に立つという信念のもと、一人でも多くの町民の声を聞くことに努め、所信7項目の成果を目指し進んできた。次年度以降もスタンスを変えることなく、何事も硬直化せず柔軟に対応して、まちづくりを進めていきたい。

二、子育て支援のこれまでの施策を継続し、足腰の強い各産業育成を進めながら、新しい人材の流入も図るべく、移住環境の整備確保が重要であると考えている。

三、現在のところはそれぞれ皆さんが、着実にその事業に取り組んでいるのが実態であると考えている。しかしながら環境が非常に厳しい中であって、それぞれの産業団体が指導に徹していただき、更なる支援が必要となれば、町としても相談ののって進めていきたい。